日本舞踊「黒田節」の伝承について

H25年3月4日

沢　恒雄

遊工学研究所

＊）本資料の著作権は著者に帰属します。

１．はじめに

＊日本舞踊　舞い＋踊り+振り＋他

５大流派：花柳流･藤間流･若柳流･西川流･板東流，　協会：160流派、6000人

＊「黒田節」

400年以上も昔、朝鮮出兵のころのエピソードに由来する。
主役は母里友信。黒田官兵衛・長政親子に仕えた武将。
長政の使者として福島正則邸を訪れた時、正則から酒を勧められた。

大盃に注がれた酒を飲み干せば何でも望みの褒美を与える。
母里は役目を理由にいったんは断ったが、黒田武士は酒に弱い、
などと挑発されて、何杯も飲み干した。

正則が豊臣秀吉から拝領した名槍「日本号」を褒美として獲得

＊）本資料の著作権は著者に帰属します。

２．目的

＊舞踊における発話と身振りの協調における談話の構造化や文脈の伝達

＊研究の最終目的

「組織学習」と「組織文化」の関連から「実践知」獲得の方法論を研究

＊）本資料の著作権は著者に帰属します。

３．調査概要

＊お師匠さん：正規の流派に所属

＊あくまで談話分析等の研究対象とする

＊「黒田武士」の背景の重要性
　⇔ダンスと相違
武士の社会的倫理や社会通念など

＊）本資料の著作権は著者に帰属します。

４．トランスクリプト①

第１図表　　黒田節　基礎的基本的な精神･知識・体系	
基本動作	武士は、常に臨戦態勢であり、歩く時、お辞儀をする時、座る時など、いつも体をどの方向にでも移動できるように行動する。
姿勢	自然体で背筋はのばすが、ふんぞり返らない、猫背にならない。攻撃された時は、体を落とし防御の姿勢がとれるようにする。
手	左右の両手で楕円形に構えるが、肩や腕に力をいれない。
足	停止時は、カガトを付けて左右９０度にひらく。
足	立っている時は、常に腰を落とした姿勢を保つ。 スリ足は、急な攻撃にも対応できる姿勢である。
歩行	ドタドタ歩き厳禁、すり足で歩く。
眼	キョロキョロしない。身体の芯に対して直角の方向を見る。

＊）本資料の著作権は著者に帰属します。

４．トランスクリプト②

第１図表　　黒田節　基礎的基本的な精神･知識・体系	
お辞儀	武士の作法としてお辞儀で、４５度ぐらいに傾け頭と背中は、 略直線で辞儀をする。
お辞儀の手	両手は、膝から１５㎝ぐらいの所で先端をつけ、８の字で畳につける。
腰	原則的に中腰を保つこと。 いつ攻撃をされても、体を沈めることで、防御できる体制である。
座る姿勢	両足の指近くの関節と両膝を畳に付けて姿勢を保つ。 両膝は肩幅より少し広くする。
片膝たて	座る姿勢から移行するときは、右足を前方に滑らして、 ドタと着地しない。
服装	袖のある着物を着用する。
足袋	必須である。裸足や靴下は滑らないのでダメ、一回使用で結構汚れる。
扇子	必須。お師匠さんの使い込んだ貫禄のある扇子を借用した。

＊）本資料の著作権は著者に帰属します。

「黒田節」 通しのビデオ

＊）本資料の著作権は著者に帰属します。

５．分析

①　急な手の変化などビデオでは撮影不可能
　　実際の舞踊動作による繰り返し伝達

②　共起の部分を発見する
　　「舞踊の動作」と分かりやすい「言葉」
　　に加え、正誤の事例を具体的に伝達
誤りの動作：チョコチョコと動かない
正しい動作：「思い切り前に」という表現

＊）本資料の著作権は著者に帰属します。

６．考察結果

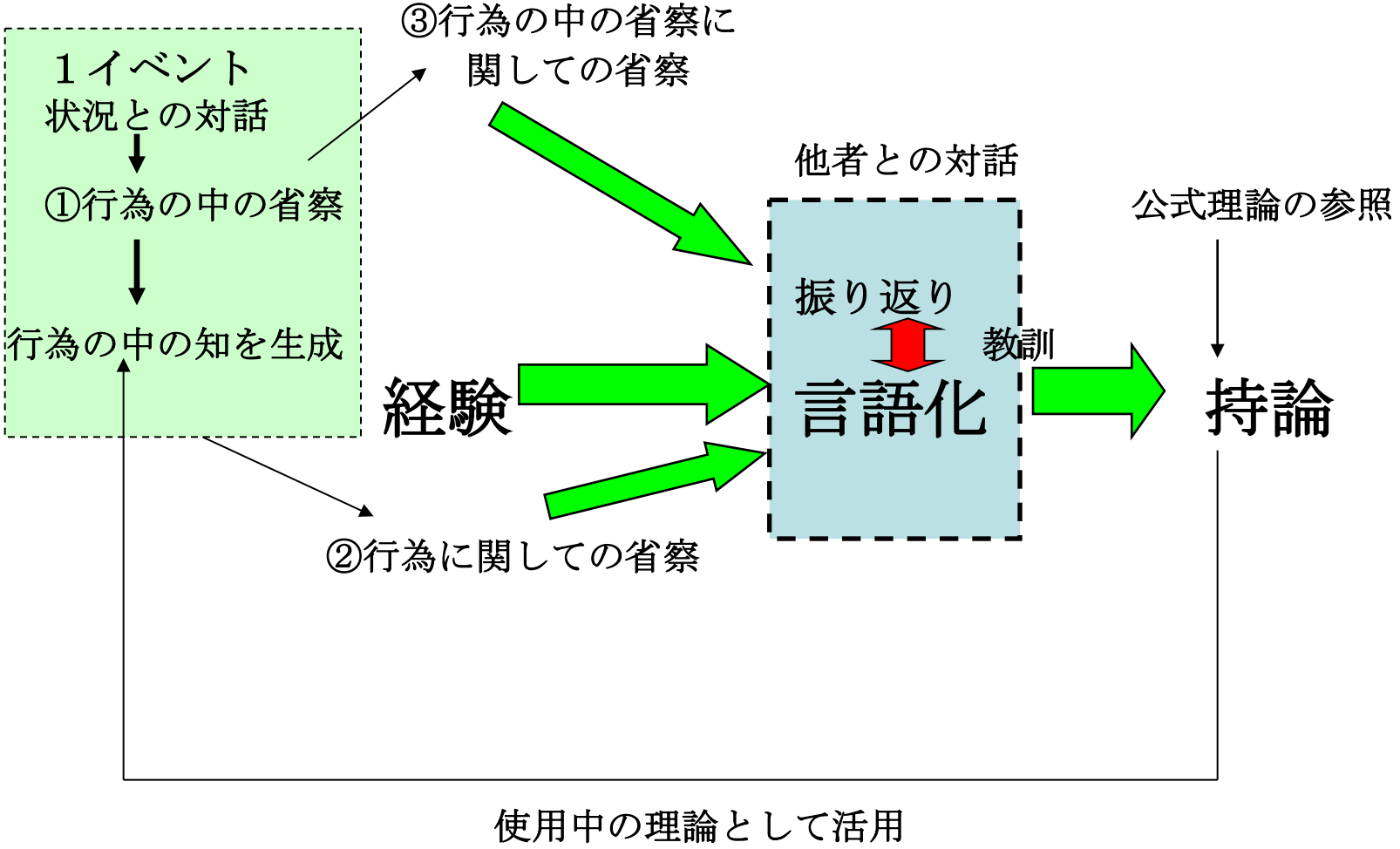
①　単一の身振りとその指示対象(モデル)との類似性や時空的な隣接性ゆえに共起する発話にない情報が身振りにより伝えら得る事例を発見した。

②　発話と身振りの間、発話間にそれぞれに共起が生じており、「動作と発話」が2回がセットなって、１つのメッセージを構成

＊) 本資料の著作権は著者に帰属します。

持論形成のプロセス概念図：金井尋宏・楠見孝(2012　P83)

経験→言語化→持論の大きなプロセスがあり、①～③の省察が密着に関係している。
日本語教育の教師の持論が言語化されていく具体的な方法を示す。



＊）本資料の著作権は著者に帰属します。

７．今後の課題

＊組織学習＋組織文化

⇔

「実践知」獲得に応用

＊）本資料の著作権は著者に帰属します。

参考文献

金井尋宏・楠見孝(2012)『実践知』有斐閣
木下康仁(2011)『ライブ講義M-GTA 実践的質的研究法』弘文堂
沢恒雄(2012 PP119-126)「日本語教育資源・資産の総合的管理ｼｽﾃﾑの概念：
　GMAISによる総合的LMS＆拡張CALL」教育システム情報学会
野中郁次郎・竹内弘高(1996)『知識創造企業』東洋経済新報社

完

＊）本資料の著作権は著者に帰属します。